

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Gwangpung Middle School



交流授業

第1回交流授業



4会場に分かれ電子黒板を使って交流



交流時間は
1グループ20分

< 4会場で実施（4会場×6回で、4学級を24グループに分けて交流）>

①全体会なし

生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会は行わなかった。

②自己紹介

1台の電子黒板の周りに集まり、グループ毎に交流した。

班長が班の人数と名前を紹介した後、一人一人が自己紹介をした。

自分の名前や好きなもの（アニメやスポーツ、K-popグループ等）等をタブレットで提示しながら自己紹介を行った。

⇒相手がよく反応してくれたため、生徒が楽しみながら交流を行うことができた。



③学校紹介or地域紹介

グループ毎に学校紹介又は地域紹介を作成した。グループ全員が話せるよう、グループ内で協力して英文やスライドを作成・準備した。紹介の中に「3択クイズ」や「T or F クイズ」を取り入れ、一方通行の発表にならないよう工夫した。

⇒多くの班で時間が足りず、次回への持ち越しとなった。

※今回の交流を通して、相手の興味・関心のあることについて知ることができた。

※発表よりもやり取りの方が交流が楽しいことが分かった。

⇒2回目の交流に向けた改善点とした。

《接続方法：Zoom》

大切にしたこと

①クロスカリキュラムで学習内容と時間を有効活用！

④交流人数の違いは工夫次第で解決可能！

⑦相手の興味のない話題はすぐ変更！

⑨交流時のデジタル機器等の環境大事！

②相手校とのメールのやり取りはシンプルに！

⑤交流時間をしっかり取る！

⑧教員はタイムマネジメントと機器の不具合への対応のみに徹する！

⑩本事業の目的を授業の中で伝え続ける！

③できるだけ相手校に合わせる！（交流日時、時間割、接続方法等）

⑥交流内容は作り込みすぎない！

交流を終えて

生徒の声

- ・廿日市についてのクイズをすると楽しんでくれて、クイズを作ってよかったと思った。
- ・英語で話すことの楽しさを知れた。もっと外国人と話してみたいと思った。
- ・母語が違って、同じ言語を学んでいれば何とかなることが分かったし、楽しかった。
- ・いざ話そうとすると人見知りが出てしまって、話すことが難しかった。何でもやってみればよかった。
- ・この経験を生かして次は留学などを通して、もっと身近に異文化を感じたいと思った。

廿日市市立大野東中学校



第2回交流授業

発表3割、やり取り7割
Free Conversationが楽しい！



交流時、生徒は自分達だけで交流

< 4会場で実施（4会場×6回で、4学級を24グループに分けて交流）>

①全体会なし

1回目同様、生徒同士の交流時間を十分確保するため、全体会は行わなかった。

②自己紹介

Do you remember me? 等、一人一人が再度自己紹介をしたが、

2回目の交流のため、スムーズに行うことができた。

③学校紹介or地域紹介（5分以内）

前回時間が足りず、持ち越しとなった学校紹介又は地域紹介を行った。

発表
3割

④Free Conversation

1回目の反省を生かし、Free Conversationの時間を多く取った。

相手の反応・様子を見ながら、生徒は話題を選択した。

生徒だけで交流し、教員はタイムマネジメントと機器の不具合への対応のみに徹した。

やり取り
7割

《接続方法：Zoom》

先生の声

- ・英語を使って、教室内で外国の同世代の人と第3学年の生徒全員が交流機会をもてたことは、大変有意義であった。
- ・多くの生徒が本事業の目的を理解し、英語を用いて仲間と協力し合いながら楽しんで交流していた。英語学習の意義を体感し、その後の学習意欲につなげることができた。
- ・本事業を通して、生徒の意欲面（本事業「英語の授業についてのアンケート」）、学力面（英検IBA・広島県中学校英語「話すこと」に関する調査）の両方で成果が見られた。